



## 平成26年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成26年8月1日

上場会社名 株式会社ダイナック 上場取引所 東  
コード番号 2675 URL <http://www.dynac.co.jp>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 若杉 和正  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理統括本部長 (氏名) 大和田 雄三 TEL 03-3341-4216  
CSR推進担当  
四半期報告書提出予定日 平成26年8月13日 配当支払開始予定日 平成26年9月16日  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年12月期第2四半期の業績 (平成26年1月1日～平成26年6月30日)

#### (1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年12月期第2四半期	16,773	5.5	156	220.1	145	289.5	37	—
25年12月期第2四半期	15,899	△0.8	48	—	37	—	△58	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年12月期第2四半期	5.33	—
25年12月期第2四半期	△8.36	—

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年12月期第2四半期	13,472	3,366	25.0
25年12月期	13,887	3,364	24.2

(参考) 自己資本 26年12月期第2四半期 3,366百万円 25年12月期 3,364百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年12月期	—	5.00	—	5.00	10.00
26年12月期	—	5.00	—	—	—
26年12月期 (予想)	—	—	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年12月期の業績予想 (平成26年1月1日～平成26年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	35,800	6.2	1,140	55.7	1,100	54.5	400	67.7	56.88

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## ※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用: 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無  
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無  
 ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年12月期2Q	7,033,000株	25年12月期	7,033,000株
② 期末自己株式数	26年12月期2Q	154株	25年12月期	154株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年12月期2Q	7,032,846株	25年12月期2Q	7,032,912株

## ※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

## ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信〔添付資料〕3ページ「業績予想に関する定性的情報」及び本日平成26年8月1日公表の「平成26年12月期第2四半期累計期間の業績予想と実績との差異に関するお知らせ」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明的情報	2
(2) 財政状態に関する説明的情報	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府・日銀による経済対策や金融緩和策を背景に、企業収益や雇用情勢の改善が見られ、緩やかな景気回復傾向で推移いたしました。しかしながら、4月以降は消費税増税の駆け込み需要の反動や新興国経済の成長鈍化など、景気の先行きは、依然として不透明さが残る状況にあります。

外食業界におきましては、消費税増税後も外食需要は堅調に推移しておりますが、原材料価格の高騰やエネルギーコストの増加などの影響もあり、予断を許さない状況が続いております。

このような環境の下、当社は引き続き「お客様の感動満足にもとづく会社の成長」と中期的な成長戦略の実現を目指し、「経営資源の最適配分を図る事業構造の改革」、「基盤となる機能・サービスの革新」及び「筋肉質な組織への再構築」の施策に取り組むとともに、食の安心・安全の観点から店舗衛生管理の徹底、商品力及び提供品質の維持・向上に努め、多様化する消費者ニーズに対応してまいりました。

当第2四半期累計期間における新規出店及びリニューアルは、小型の多店舗展開を目指した新感覚の鶏業態「とりにゃき 源氣」、熟成肉のグリルや自家製スモークが楽しめるアーリーアメリカン調の肉PUB「THE AGING HOUSE 1795」、東京駅・北町ダイニングで限定醸造ビールが味わえる「THE OLD STATION」、ゴルフ場及び文化施設内のレストラン並びに池上本門寺の敷地内にある飲食施設の運営受託などの計10店舗を新規出店いたしました。また、既存の5店舗を「MALT BAR WHISKY VOICE」、「ワイン倶楽部」、「鳥どり総本家」、「虎連坊」などに業態変更する一方、不採算店舗や契約先の事由により9店舗を閉店いたしましたので、当第2四半期会計期間末の店舗数は245店舗となりました。

当第2四半期累計期間における業績につきましては、売上面では高還元率で好評の「倶楽部ダイナック（顧客会員カード）」を軸に、消費税増税による消費環境の変化に応じたさまざまな販売促進策の展開などに取り組み、売上高は16,773百万円（前年同期比5.5%増）となりました。

利益面では、電気料金の値上げや、積極的な販売促進活動及び採用活動などの関連諸費用の増加に加え、不安定な天候要因の影響もありましたが、より一層の店舗管理コストの最適化を図り、経常利益は145百万円（前年同期比289.5%増）、四半期純利益は37百万円（前年同期は四半期純損失58百万円）となりました。

当該事業の形態別概況は以下のとおりです。

レストラン・バーの業績の概況は、ほぼ前述のとおりであり、売上高は15,163百万円（前年同期比4.3%増）、売上総利益は1,727百万円（前年同期比7.2%増）となりました。

ケータリングは、売上高は439百万円（前年同期比5.7%増）、売上総利益は41百万円（前年同期比4.8%増）と堅調に推移いたしました。

その他は、「道の駅 まくらがの里こが」の売店収入が寄与し、売上高は1,169百万円（前年同期比23.5%増）、売上総利益は167百万円（前年同期比30.7%増）となりました。

### (2) 財政状態に関する定性的情報

当第2四半期会計期間末における総資産は13,472百万円となり、前事業年度末と比べ415百万円の減少となりました。その主な増減内容につきましては、以下のとおりです。

流動資産は、前事業年度末と比べ336百万円の減少となりました。これは主に売掛金が241百万円、現金及び預金が74百万円それぞれ減少したことによるものです。

固定資産は、前事業年度末と比べ78百万円の減少となりました。これは主に敷金及び保証金が81百万円減少したことによるものです。

負債は、前事業年度末と比べ417百万円の減少となりました。これは主に買掛金が760百万円、未払費用が254百万円それぞれ減少する一方で、借入金が615百万円増加したことによるものです。

純資産は、前事業年度末と比べ1百万円の増加となりました。これは主に利益剰余金が2百万円増加したことによるものです。

この結果、自己資本比率は前事業年度末より0.8ポイント増加の25.0%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前事業年度末に比べ74百万円減少の393百万円となりました。

なお、各キャッシュ・フローの状況につきましては、以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、361百万円(前年同期は124百万円の資金獲得)となりました。これは主に減価償却費の計上355百万円、税引前四半期純利益の計上103百万円及び売上債権の減少額241百万円による資金獲得と仕入債務の減少額760百万円、未払費用の減少額257百万円の資金使用によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、292百万円(前年同期は220百万円の資金使用)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出301百万円によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、579百万円(前年同期は64百万円の資金獲得)となりました。これは主に借入金の収入と返済による資金収支615百万円によるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年12月期の通期の業績につきましては、平成26年2月6日に公表いたしました業績予想に変更ありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当ありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当ありません。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年12月31日)	当第2四半期会計期間 (平成26年6月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	468,157	393,389
売掛金	1,923,526	1,681,761
商品	53,603	42,540
原材料及び貯蔵品	210,635	167,528
その他	525,073	554,878
貸倒引当金	△12,000	△8,000
流動資産合計	3,168,997	2,832,098
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物(純額)	4,179,125	4,144,553
その他(純額)	544,259	609,037
有形固定資産合計	4,723,385	4,753,590
<b>無形固定資産</b>		
	100,293	95,470
<b>投資その他の資産</b>		
敷金及び保証金	5,002,176	4,921,087
その他	1,240,061	1,216,943
貸倒引当金	△347,020	△347,157
投資その他の資産合計	5,895,216	5,790,873
固定資産合計	10,718,896	10,639,934
資産合計	13,887,893	13,472,033

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年12月31日)	当第2四半期会計期間 (平成26年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,392,850	1,632,250
短期借入金	500,000	1,550,000
1年内返済予定の長期借入金	1,070,000	870,000
未払法人税等	161,000	93,000
未払費用	1,962,408	1,707,648
役員賞与引当金	16,800	8,000
資産除去債務	7,041	7,696
その他	659,247	670,143
流動負債合計	6,769,347	6,538,738
固定負債		
長期借入金	1,710,000	1,475,000
退職給付引当金	1,223,271	1,262,491
役員退職慰労引当金	43,066	—
資産除去債務	750,815	753,443
その他	26,411	75,827
固定負債合計	3,753,564	3,566,762
負債合計	10,522,911	10,105,501
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,741,625	1,741,625
資本剰余金	965,175	965,175
利益剰余金	651,569	653,878
自己株式	△174	△174
株主資本合計	3,358,194	3,360,503
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	6,787	6,028
評価・換算差額等合計	6,787	6,028
純資産合計	3,364,982	3,366,531
負債純資産合計	13,887,893	13,472,033

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成26年1月1日 至 平成26年6月30日)
売上高	15,899,745	16,773,087
売上原価	14,119,762	14,835,623
売上総利益	1,779,982	1,937,463
販売費及び一般管理費	1,731,226	1,781,390
営業利益	48,755	156,073
営業外収益		
受取利息	639	467
受取配当金	191	191
償却債権取立益	6,000	6,000
その他	1,365	1,531
営業外収益合計	8,196	8,190
営業外費用		
支払利息	17,831	15,766
その他	1,822	3,215
営業外費用合計	19,654	18,981
経常利益	37,297	145,282
特別利益		
固定資産売却益	49	—
投資有価証券売却益	—	2,999
特別利益合計	49	2,999
特別損失		
固定資産除却損	42,146	26,657
店舗等撤退損失	26,636	18,006
その他	270	—
特別損失合計	69,053	44,663
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△31,706	103,618
法人税、住民税及び事業税	31,937	47,662
法人税等調整額	△4,863	18,482
法人税等合計	27,073	66,145
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△58,780	37,473



## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	△31,706	103,618
減価償却費	342,730	355,518
店舗等撤退損失	26,636	18,006
貸倒引当金の増減額(△は減少)	848	△3,863
受取利息及び受取配当金	△831	△659
支払利息	17,831	15,766
売上債権の増減額(△は増加)	191,605	241,765
たな卸資産の増減額(△は増加)	36,973	54,170
仕入債務の増減額(△は減少)	△321,289	△760,599
未払費用の増減額(△は減少)	48,007	△257,810
その他	△79,651	△4,421
小計	231,154	△238,507
利息及び配当金の受取額	831	659
利息の支払額	△14,127	△12,715
法人税等の支払額	△92,937	△111,406
営業活動によるキャッシュ・フロー	124,920	△361,970
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△364,621	△301,732
敷金及び保証金の差入による支出	△84,744	△34,715
敷金及び保証金の回収による収入	271,404	69,039
店舗等撤退による支出	△25,690	△18,637
その他	△16,928	△6,621
投資活動によるキャッシュ・フロー	△220,580	△292,667
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	110,000	1,050,000
長期借入れによる収入	—	100,000
長期借入金の返済による支出	△10,000	△535,000
配当金の支払額	△35,193	△35,130
財務活動によるキャッシュ・フロー	64,806	579,869
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△30,852	△74,767
現金及び現金同等物の期首残高	397,853	468,157
現金及び現金同等物の四半期末残高	367,000	393,389

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。